

このたびは、弊社製品をご採用くださりまして誠にありがとうございます。  
 施工前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しく施工してください。又、  
 施工後は施主様に商品説明を行ってください。  
 尚、保守・点検の際も活用しますので、施工説明書・取扱説明書・仕様書は  
 所定欄に施工業者名を記入の上、まとめて施主様にお渡しください。

## 安全上のご注意

施工、使用(操作・保守・点検)の前に必ずこの取扱説明書とその他の注意書きをすべて熟読し、  
 正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用  
 ください。この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「危険」「注意」として区分してあります。

<b>危険</b>	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡又は重傷を受ける可能性が想定される場合。
<b>注意</b>	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害を受ける可能性が想定される場合、及び物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、 **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。  
 いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

## ■ 施工上の注意

### 危険

**感電注意**

**火災の危険性**

**必ずアース線を接続せよ**

- ・有資格者以外の電気工事は法律で禁止されています。
- ・内線規程等の法規を厳守して、正しい工事を行ってください。
- ・工事・点検時は主幹ブレーカを必ず切ってください。感電及び短絡による人身事故の恐れがあります。
- ・正しい配線工事をしてください。誤結線があると発火・感電・故障の原因になります。
- ・配線は適合した電線・圧着端子及び圧着工具を使用してください。発熱・火災の恐れがあります。
- ・導電部の接続ねじは、表1の推奨締付けトルクで確実に締付けてください。  
 又、工事終了時に全ての導電部のねじを必ず増締めすると共に、定期的に増締めしてください。  
 ねじが緩んでいると発熱し、火災の恐れがあります。

表1. 推奨締付けトルク

ねじサイズ	締付けトルク N・m
M4	1.2~1.6
M5 *1	2.0~2.5
M6	3.0~4.0
M8 *2	5.5~7.0
M10 *3	13.0~20.0
M12 *3	40.0~50.0

- 注)\*1 M5ソルダレス端子は、1.6~2.0N・m  
 \*2 ドライバー以外の工具で締付けるねじは8.0~13.0N・m  
 \*3 ドライバー以外の工具で締付けるねじに適用する。

- ・外部信号や連動回路により、突然動作することがあります。電源や信号をOFF状態にして作業をしてください。
- ・接地線は接地端子に確実に接続してください。接地工事に不備があると感電の恐れがあります。

# ⚠ 注意



感電注意

- ・改造等したことにより生じた事故については、一切責任を負いません。
- ・設置環境は下記条件でご使用ください。

## 屋内用の場合

- ・周囲温度：-5～40℃  
かつ、24時間の平均値35℃以下。
- ・標高：2000m以下。
- ・相対湿度：45～80%で盤内部の結露がないこと。
- ・周囲の空気のじんあい、煙、腐食性又は可燃性の気体・蒸気、及び塩分による汚染が発生しない場所。
- ・盤に対して、外部に起因する振動がない場所。
- ・ブレーカの操作が容易にできる場所。

## 屋外用の場合

- ・周囲温度：-25～40℃  
かつ、24時間の平均値35℃以下。
- ・標高：2000m以下。
- ・結露は内部機器に影響がない程度とする。
- ・周囲の空気のじんあい、煙、腐食性又は可燃性の気体・蒸気、及び塩分による汚染が発生しない場所。
- ・氷雪によりドアの開閉に影響が出ない場所。
- ・盤に対して、外部に起因する振動がない場所。
- ・ブレーカの操作が容易にできる場所。

- ・キャビネットの設置は取付面の水平を確認し、使用欄に指定されている全ての箇所を適切な太さのボルトで堅牢に行ってください。設置に不備があると事故の原因になります。
- ・基台は取付面の水平を確認し、適切なアンカーボルトを用いて堅牢に取付けてください。又、必要に応じて転倒防止の処置をしてください。設置に不備があると事故の原因になります。
- ・キャビネットを堅牢に取付けてください。盤の自重により壁面から脱落する恐れがあります。
- ・キャビネットへの通線穴加工時、内部に切粉やゴミがかからないよう養生等の処置をしてください。切粉やゴミがかかると感電・故障の原因になります。
- ・漏電や故障の原因になります。屋外盤で水の浸入の恐れのある貫通部には、防水処理を行ってください。
- ・結露した水や漏水が電線に沿って盤内機器へ入ると故障の原因となります。盤内機器への電線配線経路に配慮（電線を曲げて水が伝わらないようにする。電線を伝わって水が滴下する位置に注意）してください。
- ・何らかの原因で盤内に水が侵入した場合、漏電や故障の原因になります。水抜孔は塞がないでください。
- ・通風口がある場合は塞がないでください。故障・発熱の原因になります。又、安全のため十分な保守・点検スペースを確保してください。
- ・電源・負荷の配線は相・線式・電圧・容量を確認のうえ施工してください。発熱・火災・事故の原因になります。
- ・弱電回路は絶縁抵抗測定をしてはいけません。機器が故障します。
- ・線間での絶縁抵抗測定は、漏電ブレーカ、単3中性線欠相保護付ブレーカ、操作回路等、不具合の生じる恐れのある機器（回路）を外して電線間で行ってください。
- ・タイムスイッチの設定が間違っていると、機器の動作不良や照明の不点灯等の原因になります。関連要素を確認の上、正しく設定してください。
- ・タイマ・保護継電器等は使用条件に合わせて再設定してください。
- ・施工時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は必ず元の位置に戻してください。感電・短絡事故の恐れがあります。

## 電気工事業者様へ

- (1) 工事についての詳しい内容は、施工説明書をお読みください。
- (2) 施工終了後、電気工事業者名欄にご記入ください。

## 施 工 電 気 工 事 業 者 名

TEL

施工年月日

年

月

日

点検時に記入してください。

点検年月日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

日 東 工 業 株 式 会 社

このたびは、弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。  
(この説明書は、必ず保管しておいてください。)

## 安全上のご注意

施工、使用(操作・保守・点検)の前に必ずこの取扱説明書とその他の注意書きをすべて熟読し、正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用ください。この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「危険」「注意」として区分してあります。

	<b>危険</b>	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡又は重傷を受ける可能性が想定される場合。
	<b>注意</b>	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害を受ける可能性が想定される場合、及び物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、 **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

## ■ 使用上の注意

### 危険



感電注意

- ・有資格者以外の電気工事は法律で禁止されています。
- ・保護板は絶対に開けないでください。感電の恐れがあります。
- ・ドアは必ず施錠し、鍵は関係者以外持ち出せないよう管理してください。感電の恐れがあります。
- ・定期的に、電気工事会社に点検依頼をしてください。定期点検をしないと事故の原因になります。

### 注意

- ・内線規程では「連続負荷を有する分岐回路の負荷容量は、その分岐回路を保護する過電流遮断器の定格電流の80%を超えないこと(勧告)」と規定されています。

## ■ 保守・点検上の注意

### 危険



感電注意



火災の危険性

- ・有資格者以外の電気工事は法律で禁止されています。
- ・工事・点検時は主幹ブレーカを必ず切ってください。感電及び短絡による人身事故の恐れがあります。
- ・導電部の接続ねじは施工説明書 表1の推奨締め付けトルクの範囲内で定期的に増締めしてください。ねじが緩んでいると発熱し、火災の恐れがあります。
- ・外部信号や連動回路により、突然動作することがあります。電源や信号をOFF状態にして作業をしてください。
- ・漏電遮断機がある場合、保守点検時にはテストボタンによる動作確認をしてください。

### 注意



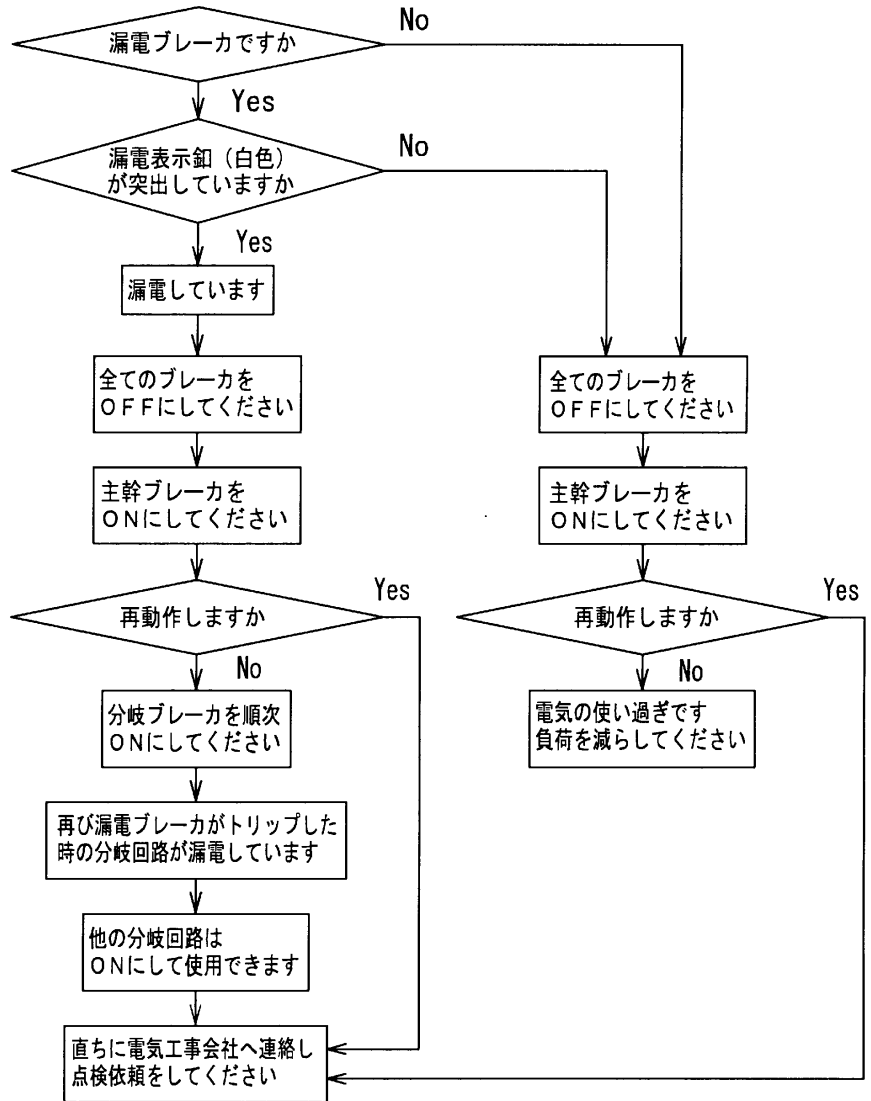
感電注意

- ・改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。
- ・保守点検時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は必ず元の位置に戻してください。感電・短絡事故の恐れがあります。
- ・弱電回路は絶縁抵抗測定をしてはいけません。機器が故障します。
- ・線間での絶縁抵抗測定は、漏電ブレーカ、単3中性線欠相保護付ブレーカ、操作回路等、不具合の生じる恐れのある機器(回路)を外して電線間で行ってください。
- ・ヒューズが溶断した場合には、必ず同容量・同型式のものと交換してください。機器破損の恐れがあります。
- ・通風口は塞がないでください。故障・発熱の原因になります。又、安全のためにも十分な保守・点検スペースを確保してください。
- ・試験モードでONにして現場を離れないでください。試験完了後は、必ず所定のモードに正しく設定してください。
- ・タイマ・保護継電器等は使用条件にあわせて再設定してください。
- ・定期的に交換する必要がある機器、例えばバッテリー等は、適宜交換してください。

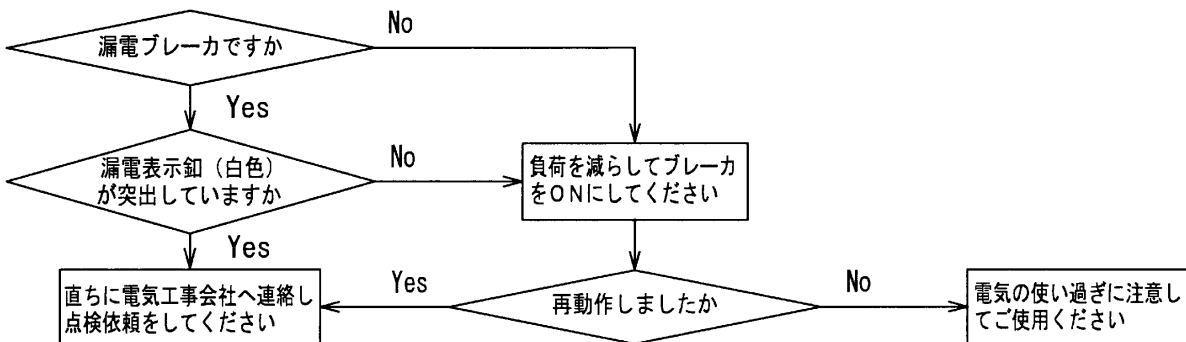
# ⚠ 注意

・ブレーカが動作した場合の  
処置について

## 主幹ブレーカが動作した場合



## 分岐ブレーカが動作した場合



★ 警告表示がかすれたり、破損した場合は、警告ラベルの発注をお願いします。

仕様等、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。

また、ご不明な点がございましたら弊社お客様相談室にお問い合わせください。この取扱説明書の内容は2009年3月現在のものです。